

# 学金連携システム研究会

平成20年9月発足

## 目的

地域の産学連携を推進するプレイヤーとして金融機関の存在が注目されている。金融機関の持つマンパワーに基づく企業ネットワークと企業情報は大学に有益であり、大学の持つ知的資産の活用は企業の強化に役立つ。しかし、学金連携は各地で散発的な活動が緒についているところである。

本研究会では、各地の**大学と金融機関との連携活動事例を集約し**、状況の把握及び分析、モデル化ならびに学・金の双方の本体業務にメリットをもたらすための**システム化のあり方の検討**を通じて、**学金連携のより効果的な推進に貢献**することを目的としている。

## 具体的活動

平成20年9月の発足以後、これまで7回の研究会を開催している。

会員所属地域において取り組まれている大学と金融機関との連携内容に関する情報交換等により、**学金連携の実態の把握および類型化**、そして**学金連携システム構築に向けた検討**を行っている。

第1回

日程 平成20年11月18日(火)  
会場 東京海洋大学越中島キャンパス<sup>1)</sup>  
永田町合同庁舎<sup>2)</sup>  
参加 15人

- ・**会員所属大学における学金連携に係る事例発表および意見交換<sup>1)</sup>**
- ・**地域密着型金融の取り組み状況概要説明<sup>2)</sup>**  
(金融庁監督局参事官)
- ・**地方再生戦略概要説明<sup>2)</sup>**  
(内閣府地域再生事業推進室長内閣審議官)

第2回

日程 平成21年3月17日(火)  
会場 東京海洋大学越中島キャンパス  
参加 18人

- ・全国的な学金連携の進展状況を把握するため、「**学金連携の実態把握のためのアンケート調査**」企画に関する意見交換
- ・事例紹介「**山梨中央銀行が取り組むコーディネータ増員とその取り組みについて**」(山梨中央銀行営業統括部公務法人推進室)

第3回

日程 平成21年9月30日(水)  
会場 東京海洋大学越中島キャンパス  
参加 19人

- ・「**学金連携の実態把握のためのアンケート調査**」結果を踏まえた分析、持続的な学金連携システム構築に向けた検討議論  
(尚、アンケート調査結果は第7回福井大会にて発表)
- ・事例紹介「**北洋銀行の産学連携への取り組み**」(北海道大学産学連携本部室長)

第4回

日程 平成21年11月30日(月)  
会場 (財)川崎市産業振興会館  
参加 12人

- ・これまでの研究会活動の総括と今後の活動方向の検討議論
- ・第3回に引き続き、「**学金連携の実態把握のためのアンケート調査**」結果を踏まえたさらなる分析、持続的な学金連携システム構築に向けた検討議論

第5回

日程 平成22年4月8日(火)  
会場 東京海洋大学越中島キャンパス  
参加 13人

- ・学金連携をより効果的に推進するため、事例の類型化方針の検討議論
- ・学金連携の類型化・事例分析のための取り組み事例集の作成および学金連携システムのモデル構築に向けた具体的な取組みについて検討議論

第6回

日程 平成23年6月15日(水)  
会場 佐賀市アバンセ 第4研修室  
参加 18人

- ・講演「**平成22年度東北経済産業局 産学官金連携調査結果の概要について**」(株式会社大和総研 産学連携室)
- ・上記調査結果に関する参加者によるディスカッション

第7回

日程 平成23年9月21日(水)  
会場 東京海洋大学越中島キャンパス  
参加 7人

- ・講演「**リレーションシップバンキング(地域密着型金融)についての考え方**」(アビームコンサルティング株式会社 顧問)
- ・産学連携に対する金融機関の環境変化に関する参加者によるディスカッション

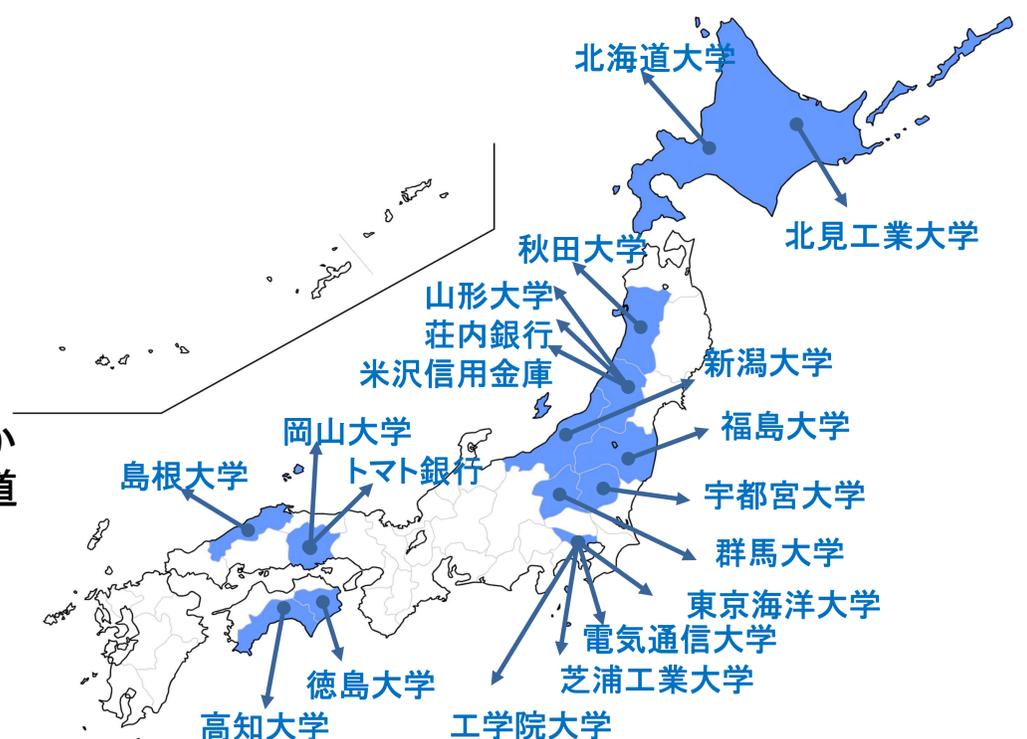
## 研究会会員

学金連携システム研究会は会員構成22名(19機関)からなり、会員の地域別分布は47都道府県のうち、1都1道10県による構成である。本研究会会員の増大を図る。

## 問い合わせ先

特定非営利活動法人産学連携学会事務局

〒182-0026 東京都調布市小島町1-11-6エンケ102  
(株)キャンパスクリエイト調布ランチ内  
TEL:050-5539-6604 FAX:042-490-5727 E-mail:j-sangaku@j-sip.org URL:http://j-sip.org/



学金連携システム研究会 地域別会員分布

特定非営利活動法人

# 産学連携学会

Japan Society for Intellectual Production

プロメテウスの火  
人類は火とそして知恵を授かり、  
しかし未来を知る能力を失った。  
代わりに得たのは、希望であった。  
今、私たちは破壊と創造の火を燃やす。